横浜市立相武山小学校

学校だより

１２月号

令和５年１１月２７日

～ まちのみんな ひとつになあれ ～

「 原 動 力 」

学校長　後藤　直樹

やっと猛烈な暑さから解放されたかと思ったとたん、朝は手袋にマフラーが欲しくなるくらいの冷え込みとなりました。そのような中、今年度はコロナ禍での様々な制限が緩和されて、「地域フェスティバル」が開催されました。PTA 事業委員の皆さんが参加団体を募り、半年以上かけて準備を進めてくださったこの行事ですが、私は着任３年目にして初めてその本来の姿を目にすることができました。オープニングの会でもお話しいたしましたが、町内会や福祉施設など、２８団体もの協力を得て、学校全体を使用してこのように大規模なイベントを実施しているケースは、私の知る限りでは他には例を見ません。子どもたちが毎日通っている昇降口に掲げられている「まちのみんな　ひとつになあれ」、その教育理念の具体的な場面を再認識することができました。そして当日は、子どもたちの笑顔で溢れそうな校内を見て、本校の児童は、家庭でも地域でも愛されている幸せな環境の中にいるなと実感いたしました。ご協力いただいた団体の皆様には、この紙面を借りて改めてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

さて、今年度の４月中旬に実施された、全国学力・学習状況調査の中で行われた生活習慣等の調査では、「地域行事に参加している」や「地域や社会に貢献したい」という項目に「自分が当てはまる」と回答した子どもたちが、全国平均を１０ポイント程度上回っていました。今、改めて考えると、これは当然の結果であると思えてきました。「フェスティバル」が毎年の恒例行事として定着していた部分もありますが、コロナ禍をきっかけにこうした行事は縮小や廃止となったという話も耳にします。しかし見事に復活したその熱意に共感しました。そもそもの原動力となっているのは何なのでしょう？もちろん保護者や地域の皆様の意識の高さや熱意であることは間違えありません。そして、それを引き出しているのは素直な子どもたちの「笑顔」だと思うのです。ですから学校にできることは、日々の生活の中でも素直に感謝の気持ちが表現でき、いつか自分もこうした行事などにも主体的にかかわっていきたい。そのような積極性と郷土愛をもった子どもたちを育てていくことだと考えています。これからもこうした風土が、良き伝統として受け継がれていくことを願っています。